

一〇一六年一月刊行 ■ A5判／上製／クロス装／函入 ●本体五、八〇〇円+税 ISBN978-4-8433-4981-6 C3070

東洋美術史学の発展に大きく寄与した学者大村西崖が遺した日中文化交流の記録を初めて公刊。

# 西崖中国旅行日記

ゆまに  
書房

YUMANI  
SHOBOU

▼著 大村西崖



〔編修〕吉田千鶴子（東京芸術大学教育資料編纂室）

〔編修協力〕後藤亮子

# 刊行のことば

大村西崖（おおむら・せいがい一八六八～一九二七）は明治、大正から昭和にかけて東洋美術史学の発展に大きく寄与した学者である。膨大な著述を成し、学識は国内外に知られており、とくに名著の誉れ高い『東洋美術史』の中国美術の部分は『中国美術史』として中国で今日まで刊行が重ねられている。

西崖が念願の中国旅行を果たしたのは晩年の大正十年のことと、同十五年までに引き続き四回中国へ行き、その日記を残した。第一回旅行の日記は非常に記述が詳細で、他は簡略だが、内容の豊富さは圧倒

吉田千鶴子

的だ。政治的、社会的に決して平穏とはいえない中国に乗り込んで有力な学者やコレクター、画家のもとを訪ね、所蔵の名画を見、写真師に撮影させ、古書を購入し、その間に遺跡の見学もし、まさに獅子奮迅の勢いで中国美術の膨大な資料を手にしたばかりか、自ら推進していた文人画復興運動の一環として現代文人画家の作品と歴史、潤例をも集めた。帰国するやそれを東京美術学校その他で展示し、音に聞く名画が実際はどうなものであるか、また、中国で活躍中の画家はどういう人たちかを初めて日本人に知らせたのであつた。

西崖が旅行目的を十分果たし得たのは北京の金城、陳師曾、上海の王一亭、呉昌碩、唐熊らを初めとする友人たちや中国通の日本人たちの熱心な協力があつたためだ。日記は当時の中国人と日本人の親密な交流のさまを彷彿とさせる。

## 目次から

- ・第一回旅行日記  
(大正十年十月～同十一年一月)
- ・第二回旅行日記(大正十二年四月)
- ・第三回旅行日記(大正十三年五月)
- ・第四回旅行日記  
(大正十三年十一月～同十四年一月)
- ・中国旅行日記卷末覚え書き
- ・第五回旅行日記  
(大正十五年四月～同年五月)
- ・中国旅行手記
- ・人名録
- ・附録「支那歴遊談」「若い方に」  
(大村西崖)
- ・後書き

第1回旅行日記(大正10年10月～同11年1月)

〔第一回旅行日記 大正十年十月～同十一年一月〕

北京東城芳嘉園一號 著漢金宅  
李維格(工學博士) 上海  
東華照像材料行外村太治郎 東局二七九四 北京崇文門大街總布胡同西口  
文宗淑 訪蘇  
錢穎孫 教育部(今関氏知人)  
陳衡恪 号朽道人(字師曾) 江西義寧人 西城報子街西庫資胡同  
奉天沈町東拓舍宅川達方河南拓  
金紹城 字鞏伯 号拱北 浙江吳興人 東城南小街 方家園  
揚州小花園巷高洲太助 塾運使顧問  
上海吳松路 高野山岡村宥照(中野義照)  
崖／日中文化交流と西崖

本文見本  
約52%に縮小



●編纂●中国国家文物鑑定委員会

中国文化財図鑑

全6巻 ●各巻定価：本体28,000円+税

- 1● 仏像 ●4● 青銅器
- 2● 玉器 ●5● 家具
- 3● 兵器 ●6● 文房具

- 本書の特色
- 東京美術学校教授・東洋美術史研究家大村西崖(一八六八～一九二七)の中国旅行に関する日記・手記を翻刻(原資料は東京藝術大学所蔵)。
  - 日記に登場する人物約三四〇名の情報を探載(「人名録」)。
  - 作品撮影・蒐集経緯の記録と、当時の日中両国の美術家・コレクター等美術関係者、文化人と交友録。
  - 日中戦争までの一九一〇年代日中文化交流史研究の基礎資料。



〒101-0047

東京都千代田区内神田2-7-6  
TEL.03(5296)0491  
FAX.03(5296)0493  
<http://www.yumani.co.jp/>  
e-mail eigyou@yumani.co.jp



●編纂●中国国家文物鑑定委員会

中国文化財図鑑

全6巻 ●各巻定価：本体28,000円+税

- 1● 仏像 ●4● 青銅器
- 2● 玉器 ●5● 家具
- 3● 兵器 ●6● 文房具

ゆまに書房	Tel.03(5296)0491/Fax.03(5296)0493	年 月 日	※毎度ありがとうございます。お申し込みはぜひ当店へ。
西崖 中国旅行日記 定価：本体5,800円+税 ISBN978-4-8433-4981-6 C3070		取扱店	
ご注文書	お名前 ご住所	TEL ( )	16.02/01.7000.FR